

子どもも図工も もっと好きになる 日文の単行本

全国の書店、またはAmazon等の
オンライン書店にてお買い求め
いただけます。

授業で活用してください！ 日文のデジタル コンテンツ



KOMA KOMA × 日文

ダウンロードもインストールも不要！
コマ撮りアニメーション撮影アプリ『KOMA KOMA』がブラウザ
(WindowsPC×Edge、Chromebook×
Chrome、iPad×Safari)で利用できる
ようになりました。

「指導者用デジタル教材」 Web 配信サービス

DVD-ROM やサーバ配信でご活用
いただくことが困難な環境の学校
に、Web 配信サービスをご提供して
います。(お申し込みは指導書ご購入校様に
限ります)

他にもSNS公式アカウントにて随時お役立ち情報を配信しています。ぜひフォローしてみてください！

→ [@nichibun_g](#) [@nichibun.g](#)

図工のお悩み相談室 No.04

日文 教授用資料

令和3年(2021年)8月5日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33565

デザイン・イラストレーション: やまねりょうこ

日本文教出版 株式会社 <https://www.nichibun-g.co.jp/>

大 阪 本 社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171
東 京 本 社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618
九 州 支 社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938
東 海 支 社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18・B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690

日文 教授用資料

図工のお悩み 相談室

No.
4

今回のお悩み
評価について

—— 回答者 ——

阿部宏行 先生
鈴木陽子 先生
西村徳行 先生

(掲載順)

※本冊子掲載 QR コードのリンク先コンテンツは
予告なく変更または削除する場合があります。
※QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登
録商標です。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！

日文

検索



『図工のお悩み相談室』は、
悩める先生が自分なりの解決の糸口を見付けられるように、
回答者と共に考えていく場です。

今回のお悩みテーマは評価についてです。
作品のできばえだけで判断するものではないと分かっているけど、
活動している子どものどこをどう見取ればよいのかは
悩ましいものです。
回答を読みながら、図工での評価について
一緒に考えていきましょう。

ウェブサイト『図工のお悩み相談室』では、随時
お悩みを受け付けています。
日本文教出版は子どもに寄り添う図工の授業を、
先生と共に考えていきます。

先生からひと言

回答者紹介



札幌大学女子短期大学部
教授

阿部宏行 先生

そこに「形や色、感覚を通して学ぶ」
楽しさと育ちがあるか



目黒区立五本木小学校
主任教諭

鈴木陽子 先生

夜明け前に鳴きかわす
鳥の声を聴くことが好きです



東京学芸大学
准教授

西村徳行 先生

「みかたをかえる」は、
いまを楽しく過ごすアイデアです



図工って、子どもが楽しそうにやっていればよいのでしょうか。
子どもに何が身に付いているのか、いまいち分かりません。

子どもが「楽しそうに」やっている姿を、自身の資質・能力を
発揮している姿であると捉えたと、見え方が変わってくるはずですよ。

阿部宏行 先生



ただ「楽しそうに」やっていればよいわけではもちろんありません。ただ、子どもが「楽しそう」なときというのは、自分の資質・能力を存分に発揮できるときに喜びを感じているときです。主体的な学びをしているとき、ともいえるでしょう。

授業中の子どもの様子をよく見てみましょう。つぶやきや友だちとの会話から、発揮している資質・能力を読み取ることができます。例えば、木切れを手にした子どもが、「この形面白いな。こっちから見ると顔に見える!」「この木は、他の木と色が少し違って、きれいだな」などとつぶやいていたら、木切れの形や色の特徴に着目し、自分がいいなと思うものを見付けていることが分かります。また、「こっちに長くつなげよう」「平らな形を底にして、高く積もう」などと、木切れの並べ方や積み上げ方を工夫し始めたら、発想や構想を

する力を働かせて、自分の思い描くイメージを実現しようとしていることが分かります。さらに、友だちと一緒に活動することで、友だちのアイデアに造形的な刺激を受け、発想が広がっていくこともあるでしょう。友だちと活動を共にすることは、自分の思いを伝える力や、協働性を伸ばすことにもつながります。

そして、**何かをつくりだす行為自体が、子どもにとって喜びであり「楽しい」のです。創造する力は、人間だけがもっている力です。子どもが自らの創造する力を発揮し、形や色と関わる中で、新しい意味や価値をつくりだしている瞬間を、授業の中でたくさん見付けてみましょう。**その姿を見取することは、先生の大切な役割の一つでもあります。

本冊子は日文ウェブサイト「図工のお悩み相談室」の内容を一部修正のうえ、掲載しています。



阿部先生が4コマ漫画で分かりやすく伝える
「評価のABC」はコチラから!





子どもが「できた！」と言って作品を持って来たけれど、
完成したように見えないときは、どう声をかければよいですか。

活動の様子や作品などから、その子のよさを伝えましょう。対話しながら
思いや考えを受け止め、もうひと工夫できそうなことは何か、一緒に考えます。

鈴木陽子 先生



子どもを見る、学びのプロセスを見る、
感じ考えていることに教師は寄り添っていく

教師は、子どもが探し、見付け、つくりだしている学び
のプロセスに目を向け、共感的に見守りながら、発揮
している資質・能力を見取っていくことが大切です。

「材料の組合せを何度も試しながら、いい形を探してい
るな」「隣に置く色をじっくり考えているな」「次はど
うするのかな」「挑むように用具の手応えを感じてい
るな」「筆の使い方を試すことから表したいことを思い付
いているな」「困っていないかな」など、**活動の様子か
ら子どもの思いを想像してみましょう。**また、生まれ
ては変化していく形や色、表し方などに子どもがどの
ようなことを感じ、考えているのか、一人一人の思い
を**実現できるよう寄り添っていく**必要があります。

必要があれば、**他の材料や用具、表し方、視点を変え
て見ることを提案してもいいでしょう。**子どもの心に
届く先生の声かけは、「もっとやってみよう」「もう少し
し考えてみよう」と学びを深めていくことにつながり
ます。



授業を見直すチャンス

子どもの作品が「完成したように見えない」と思った
とき、授業を見直すチャンスです。「めあては伝わって
いたか」「活動の見通しはもてていたか」「紙のサイズ
が大き過ぎなかったか」「この用具はこの子に必要なだ
ったか」「自分のやりたいことを見付けていたか」「教師
の作品の完成イメージをもち過ぎていなかったか」「活
動のプロセスでその子に必要な声かけができていたか」
「題材で育む資質・能力を明確にしていたか」などを見
直していく必要があります。

友だちの作品や活動に触れることのできる動線を考え
た環境も大事です。友だちの材料や用具の生かし方、

表し方のよさに気づき、自分の表現に取り入れたいくな
るかもしれません。

**「自分の思い付いたことを自由に試せる。失敗しても大
丈夫。見守ってくれている先生がいる図工室」の風土を、
時間をかけてつくっていきましょう。**

子どもが夢中になって、心や体をいっぱい働かせ、
感じ、考え、つくりだせる授業を問いつけ、先生は子
どもと一緒に学んで成長していきましょう。誇らしげ
に「できた！」を自分で決める子どもに立ち会えます
ように。

鈴木先生が図工での子どもの姿を語る連載
「ともにかなでる図工室」はコチラから！





評価はABCをつけていくものだと思っていたのですが、
いろいろな話を聞くうちに少し違うもののよう感じ始めています。
「評価」というものについてどのように考えればいいのでしょうか。

「子どもから引き出したい力が発揮されているか」という視点と
授業改善の視点をもつことです。

西村德行 先生



教師にとって子どもたちの成長は何よりの喜びです。
授業を通して子どもたちが様々な力を発揮してくれる
ことを期待して授業が行われます。しかしそれぞれの
授業には目的があります。**目の前にいる子どもたちに
どのような力を付けてほしいのか、その力を発揮でき
るように、教師が意図的に設定したものが授業です。**
**教師はそれぞれの授業で子どもたちから引き出したい
力が発揮されている様子を想定し、それを視点として
評価を行います。**想定した視点をクリアしている状態
が「B」にあたります。

しかし授業では、想定した引き出したい力だけでなく
様々な力が発揮されます。引き出したい力を発揮して、
なお新しいアイデアを考えたり、一つの表現に飽き足
らず別の表現にチャレンジしたりするなど、資質・能
力をさらに深める姿が見られた場合は、それをさらに

評価に加味することになります。なお想定した視点を
クリアしていない場合は、適切な手立てを行うことが
教師の役割です。そのためにも、子どもたちの様々な
活動の様子を想定し、事前に複数の手立てを用意する
など、十分に準備することが大切です。また多くの子
どもたちがつまずきを感じている場合は、授業の設定
が適切であったのか、検討することも重要です。
授業の目的を子どもたちと共有しながら、子どもの可
能性を引き出す授業になるよう、教師は授業改善の視
点をもつことも大切です。



「学びに向かう力、人間性等」の「個人内評価」について
どのようにすればよいのか悩んでいます。
考え方や具体的な方法について教えてください。

子どもたちの活動を見て気付いたことを書きためておくといよいでしょう。

西村德行 先生



図工の授業では、子どもたちが活動し、造形的な力を
発揮している様子を捉え、評価します。教師は子ども
たちの活動に対する評価の視点を持ちながら、授業を
行います。しかし評価には、力を発揮する子どもたち
の姿を言葉で分類して示す「ループリック」や、明確
な「数値化」で示せるものばかりではありません。「学
びに向かう力、人間性等」を評価する際、数値化等が難
しいところを評価するのが、「個人内評価」になります。
**例えば作品に対する愛着や、友だちへの心配りなど、
言葉にはなりますが数値化はできません。しかし教師
としては、造形的な力を発揮している姿と同様に、子
どもたちを評価したいところです。これを「個人内評価」
として評価します。例えば子どもたちの活動で気付い
たことを教師が書きためておき、記録をもとに学期や
学年を通して評価することが考えられます。**授業には

目的がありますが、子どもたちが様々な発揮する姿を、
全面的に捉えるためにも、「個人内評価」を大切にした
いところです。

西村先生監修の誌上公開授業
「子どもとつくる図工の時間」はコチラから！

